

大阪秋季例会開催のお知らせ

2014年度第2回大阪例会を下記の通り開催いたします。皆様、多数ご参加ください。

日時：2014年9月27日（土）10時～16時40分

場所：大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園1-23）Tel. 06-6697-6221

HP: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/> 通用門よりお入り下さい。

プログラム：

10:00～12:00	自由懇談・同定会、大阪例会運営幹事会
12:00～13:00	昼食、休憩
13:00～13:30	会務報告会・例会事務連絡
13:30～15:30	講演
15:40～16:40	「一人一話」会
17:30～19:30	懇親会（場所：アサヒビアケラー・アベノ） 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-36 Tel. 06-6641-6282

懇親会会費：4,500円（飲み放題）

講演：「日本産オトシブミ、チョッキリの多様性と問題点」

演者：沢田佳久氏（兵庫県神戸市）

要旨：オトシブミ科とチョッキリゾウムシ科はともに興味深い生態を持つことで知られる。一般化していうならば、産卵に際して植物の柔らかい部位を物理的に加工することに長けた群である。形態的には、触角や口器および腹部にゾウムシ上科の比較的祖先的な形質を残した群とみなされる。この上科の系統発生の早い段階で、顕花植物の適応放散に呼応するかたちで、その基本様式（形態や生態を含めた）を確立した群だと考えられる。なお生態、形態ともオトシブミ科とチョッキリゾウムシ科は異質であり、それぞれの単系統性には問題がある。現在のところ両者を区別して理解するのが現実的である。日本列島は、チョッキリゾウムシ科に関しては主要グループをほぼ網羅したファウナを擁しており（約70種）、非常に恵まれた観察地である。多様な形態と多様な生態の見事な対応が見てとれる。ただし未記載種、生態未解明種があり、多様であるからこそ全ての種について繁殖様式や幼虫の形態の解明が待たれるところである。オトシブミ科に関しては新世界（特に新北区）に見られる要素が大きく欠落している。限られた邦産種（約30種）は旧世界（主に東洋区）の多様性をよく代表したものである。国産の種は生態知見を含めほぼ網羅されている感があるが、幾つかの種について種生物学的な問題があり、要注意個体群が存在する。オトシブミ科はその生態とともに、特異な頭部の形態にも関心がもたれるところである。問題は、葉を加工するメスではなく、作業に関与しないオスの頭が長いことの要因である。それは闘争や視野確保との関連で理解することができる。

例会・懇親会の事前の参加申し込みは不要です。当日、例会参加者はお茶代・資料代として200円を徴収いたします。懇親会は当日受け付けます。

2014年度年末例会・忘年会の予定

年末例会:12月13日（土）10時～16時40分。自由懇談会・同定会、大阪例会運営幹事会、会務報告会、「一人一話大会」または講演会の予定。

忘年会（アサヒビアケラー・アベノ、17:30～19:30）の予定。

次回「お知らせ」で、一般講演の演題名を掲載希望される方は、8月24日（日）までに運営幹事までメールでご連絡ください。講演時間等は後日打ち合わせ致します。

（大阪例会運営幹事 安井通宏、メール：yasuimichihiromy@ab.auone-net.jp）